

### 3.3.2. ポラーノ広場の活動経緯

平成 11 年に設立した岩手県医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」は、安心と生きがいのある地域社会づくりをめざし、地域医療福祉情報環境を連携させた「生活圏ネットワーク」を提唱し、県内外への講演・広報活動と共に、関連技術、フィールドの調査研究を進めている。

平成 12～13 年度は、ポラーノ広場を契機として、株式会社モリーオの設立、カシオペア連邦地域情報化モデル事業の受託（岩手県立大学として）など、ポラーノ広場が担う役割の一部を各機関に移行することができた。

平成 14～16 年度は、主に地域情報化、医療情報システムに関する研究発表、講演活動、講演会の開催を中心とする交流活動に主軸を移している。これまで、岩手県立大学の各学部、長寿社会振興財団、生活科学運営（株）、（株）モリーオなど様々な組織の連携による新しいプロジェクトや共同研究が立ち上がった。

平成 17～18 年度は、会員や学生による研究、プロジェクトの情報提供によるディスカッションを行った。また、ポラーノ広場での交流が契機となり、岩手県立大学全学プロジェクトの中の「少子・高齢研究プロジェクト」のテーマとして「ライフサポートネットワーク」の研究を進めることができた。さらに、紫波町での「結いネット」（高齢者安否確認、遠隔健康管理システム）が平成 18 年度（財）自治体衛星通信機構の「公的個人認証サービス活用モデルシステムの導入普及事業実証実験」に採択された。

平成 19～20 年度はポラーノ広場として日経地域情報化大賞「日本経済新聞社賞」を受賞した。また、JGNⅡを用いた 2 度の講演会の開催などで、ポラーノ広場の存在を全国にアピールすることができた。次に、岩手県立大学と紫波町、遠野市、川井村（現在宮古市）との包括的連携協定の締結、総務省地域 ICT 活用事業「遠野型すこやかネットワーク」の採択（遠野市）など、これまで提唱してきたコンセプトが現実の社会に実を結びつつある。さらに、北上市「坂の上野田村太志クリニック」との統合型健康増進支援システムに関する共同研究、岩手県社会福祉協議会における「市町村社協が民間事業者の協力を得て取り組む ICT（情報通信技術）を活用する予防型見守り安否確認システム開発のための利用者調査と見守りシステムの試行的実施と検証」（厚生労働省補助事業）など、ポラーノ広場の人的ネットワークを活用した研究案件が増えてきている。

平成 21 年度は、岩手県社会福祉協議会、（株）イワテシガと岩手県立大学の共同研究「ICT を活用する高齢者安否確認見守りシステムの実用化研究」を実施した。また、岩手県立大学公募型地域課題研究（北上市坂の上野田村太志クリニックと共同研究）「診療所用電子カルテと連携した統合型健康増進支援システムの研究」も平成 20 年度から継続して行った。さらに、ポラーノ広場の中で提唱された「健康ビジネス」をターゲットにした提案に基づき民間企業（（株）オフィス エム アンド エム）から岩手県立大学への受託研究「ウェルネスサポートシステム情報基盤に関する研究」を実施することができた。